

地域と食の未来をつなく

 JAおおいた



園芸販売部 直販課 松野 恭子

大分県内の計19JAが広域合併した農業協同組合。 ぶどう・かんきつを重点的にアジアを中心に輸出を実施。

会社名

- ・ **大分県農業協同組合**(大分県大分市花園3丁目2番10号)

品目

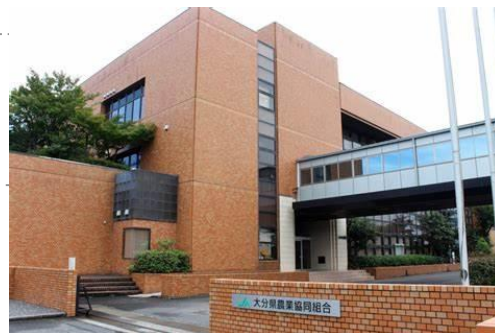
- ・ ぶどう・かんきつ・みかん・梨・かんしょ 等

輸出先国

- ・ 香港・台湾・シンガポール・タイ・マカオ 等

取組内容

- ・ 大分県内の計19JAが広域合併し運営
- ・ 大分県農協ではJGAP団体認証日本一に向けた輸出産地づくりを後押しする支援体制を構築
- ・ 輸出先国の残留農薬基準に対応した防除体系の確立、春節の贈答用需要に向けた貯蔵・輸送試験、冷凍加工品の開発などに取り組む



輸出産地づくりのポイント ～ JGAP団体認証取得

杵築柑橘選果場で説明を聞く参加者



部会全体で海外輸出に力を入れているJAおおいた日田梨部会は、GAP（農業生産工程管理）認証取得に取り組む。部会は85人が在籍。全員が、来年1月に予定されている審査での取得を目指す。

輸出にらみ産地底上げ

GAP認証

JA G A P 研究会事務局は7月中旬、杵築市内で視察研修会を開いた。JA日田梨部会役員や事務局、行政関係者ら18人が参加。参加者は杵築柑橘（かんきつ）選果場と、G A P 認証を取得した生産者の倉庫や農薬庫を視察し、認証への取り組みを学んだ。

部会の梶原智俊部会長は「梨産地として、もう一皮むけたいと考えている。諸外国はG A P 認証を取得した上で輸出しているのだから、必ず審査に通らなければならない」と意気込んだ。

事務局担当者は「現状の農家や方を生かす、知恵と工夫でG A P 認証が取得できるように、JAと指導員も体で取り組んでいこう」と力を込めた。

（おおいた）

JAおおいた日田梨部会

2018年7月26日（木） 日本農業新聞 ワイド2九州 14ページ ©日本農業新聞

四季を通じて
日田梨

日田梨のJGAPの取組

GAP取得した梨で摘果作業をする梶原部会長（大分県日田市で）



（おおいた）

研究会はこれまで23団体、295人の視察研修を全国から受け入れており、G A P 普及にも貢献している。

研究会はこれまで23団体、295人の視察研修を全国から受け入れており、G A P 普及にも貢献している。

研究会はこれまで23団体、295人の視察研修を全国から受け入れており、G A P 普及にも貢献している。

JGAP`日本一`

指導員が巡回 160農場で認証

JAおおいたG A P（農業生産工程管理）研究会は2018年度、J G A P 団体認証を持つ農場数を前年度から100増やした。総数は160農場で、JAによる

JAおおいた研究会と、JA別では全国一のJ G A P 団体認証組織になった。JA営農指導員の6割がG A P 指導員資格を持ち、県と連携した体制を強化して指導に取り組んだことが奏功した。

県と連携奏功

18年度は従来のイチゴなどに加え、梨、トマト、ニンニク、カボチャで新たに認証を取得。J G A P 認証の農産物販売高はJA全体で34億円に達した。これは、JAの青果物（野菜・果樹）販売高の2割弱を占める水準に当たる。

認証取得を促げるため、JAの地区事業部ごとに事務局を設置するとともに、JA営農指導員が巡回指導をきめ細かく行い、農家のレベルアップを支えた。農家の目合わせや、労働安全に関する外部講師を招いた研修会をJA全体や事業部ごとで繰り返し開いた。認証審査費用も減らした。

日田梨部会は18年度に85農場が認証を取得した。梶原智俊部会長は「10年くらい前からG A P 認証の要望がスーパードからあった」と活動のきっかけを説明する。今後は「20年の東京五輪・パラリンピックを境に、要望はさらに強くなるだろう」と見通す。日田梨は輸出もしているため、将来的には国際水準のグローバルG A P などを得ることも視野に入れる。

2019年4月25日（木） 日本農業新聞 JA 5ページ

©日本農業新聞

1

輸出産地づくりのポイント ～輸出とGAPの関わり

タイに青果物を輸出する皆様へ

1

～ 2019年8月25日からタイ向けに食品衛生に係る証明書が必要になります ～

✓ タイに青果物を輸出する事業者の方々は、2019年8月25日から、食品衛生の観点から、梱包等を行う施設で証明書等を取得いただき、輸出の際にその証明書等を添付する必要があります。

✓ 証明書等としては以下のものが使用できます*。

1. タイ向け青果物の選別及び梱包施設に係るJFS規格（4月に策定予定）の適合証明書

【規格概要】：施設、用具、機械及び設備、製造工程の管理、保守、清掃、作業員の衛生管理、残留農薬・添加物の管理

***規格の詳細が決まりましたら、別途ご連絡いたします。**

2. GAP認証（対象となる認証の種類は確認中）

3. JFS-B（製造カテゴリ）及びJFS-C（製造カテゴリ）の認証

*上記1～3の他、ISO22000:2005、BRC Global Standard for Food Safety等の規格の認証、行政機関による証明書（都道府県から発行されるケースを想定）も使用できます。

タイに青果物を輸出する皆様へ

7

～ 使用できる証明書、タイ向けJFS規格のガイドライン、適合証明プログラム規定及び監査会社公表のご案内～

1. 使用できる証明書について

青果物の梱包等を行う施設は、タイ向けに青果物を輸出するために、2019年8月25日から食品衛生に関する要求事項を満たした証明書が必要となります。以下に掲げる規格はタイ王国FDAが同等以上と認めており、タイ向け輸出に際し、その認証書または適合証明書を使用することができます。なお、使用する場合、英文認証書・適合証明書の原本証明がなされた複写の提示が求められます。

① タイ向け青果物の選別及び梱包工程に係るJFS規格 ver. 1.0

② JFS-B規格（製造セクター:E）ver. 1.1

JFS-C規格（製造セクター:E）ver. 2.2, 2.3

③ GLOBAL G. A. P. ver. 5.1, 5.2（選果・梱包施設部分（「生産物の取り扱い」）が認証範囲に含まれるものに限る）

④ ASIAGAP ver. 2.1, 2.2（選果・梱包施設部分（「農産物取扱い工程」）が認証範囲に含まれるものに限る）

⑤ JGAP 2016（選果・梱包施設部分（「農産物取扱い工程」）が認証範囲に含まれるものに限る）

⑥ FSSC22000 ver. 4.1, 5

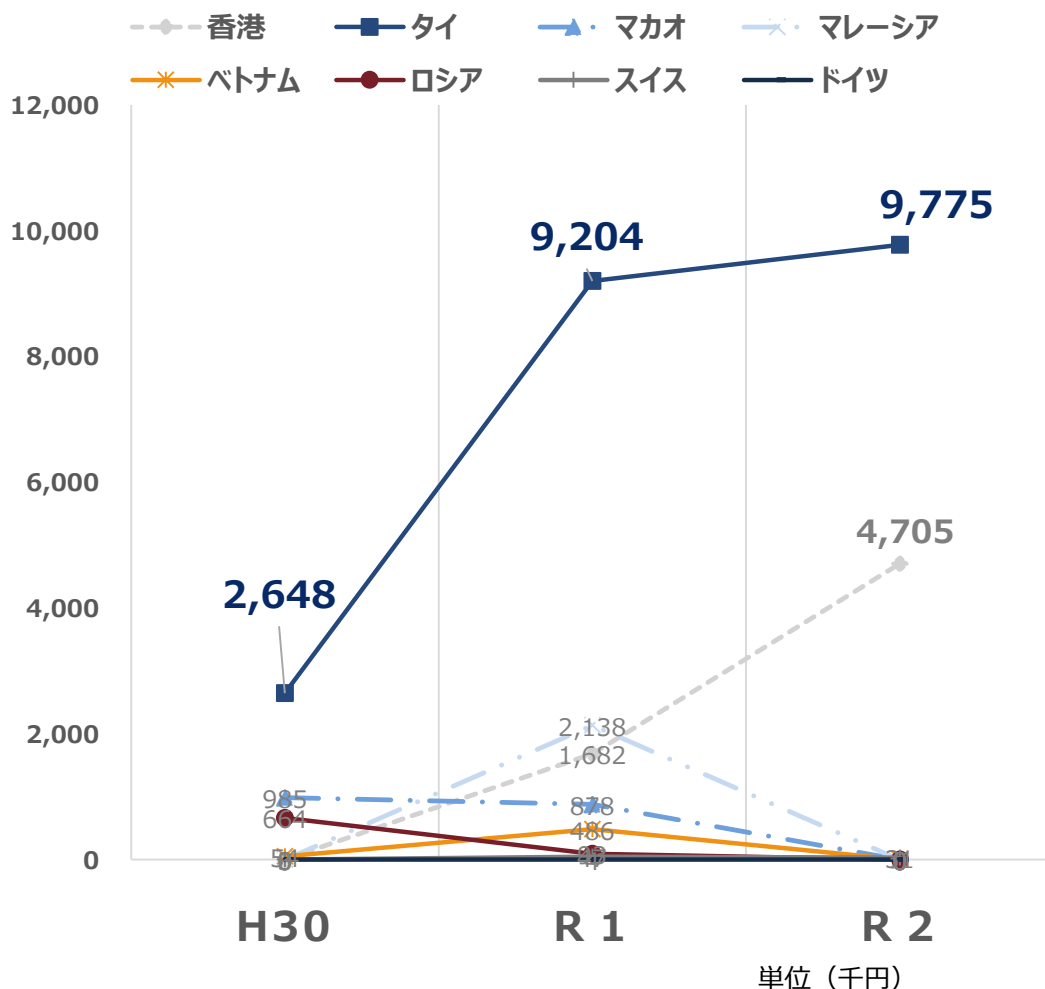
*上記の他、ISO22000:2005、BRC Global Standard for Food Safety等の規格の認証も使用できます。

2019.0329公示

2019.0620公示

輸出産地づくりのポイント ～販売への効果

○ケース1 タイの販売（直販課扱い）



○ケース2 PPIH様との商談

- ・今後、GAP認証を取得した品目で輸出をおこないたい。
- ・海外で、安全・安心を証明することは難しい。認証を取得しているものであれば、証明できる。
- ・現在、白ネギでは関東のGAP産地と連携しているが、大分とも連携して商品をきらさないような販売をしていきたい。（3月下旬より取引開始）
- ・GAPを取得した品目を提案して欲しい。



甘太くん(高糖度かんしょ)の2017年当時腐敗が問題に

渡航調査

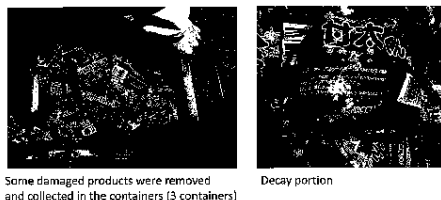


着荷状況

Survey Report	
Date	8 th Feb 2019
Place	XXXXXXXX (KL)
Product	KANTA-KUN 500g
Person	Kyoko Matsuno (JA OITA) Tetsuya Yokoji (OITA PREF GOVERNMENT)
Quantity Inspected	7 Cartons
Estimated damaged quantity	10% to 12.5%
Comment: Shipping temperature was adequate and no condensation was confirmed. However, some decay was observed from some cartons. It seemed there were a relation between decay and farmer and those decay was from specific farmers. 4-5 pcs of decay per carton were found from specific farmers. No decay was found from the other farmers.	



販売時状態確認



レポート提出

考察



・リーファー(冷蔵)コンテナ輸送
(温度帯: 2℃～5℃)

・貯蔵・出荷時の低温



・圃場や選荷時の乾燥不足



・圃場由来の病原

輸出産地づくりのポイント ～生産技術・出荷体制の構築

①栽培管理の徹底



目標

現状

課題

対応策

②選果出荷の見直し

目指せ年内・コンテナ満載輸送！

農家さんによる袋詰め出荷

- 1.)11月は掘り取りのラストスパート選果まで手がまわらない
- 2.)かんしょの主要産地の選果場は多品目の選果中で選果を請け負えない

全農買取・農協選果！

- ・全農が圃場にコンテナを配り、買取
- ・かんしょの産地ではない選果場を活用し選果出荷

③生産者の参加



着荷調査



販促対応



報告

香港向けみかん輸出が急拡大(前年比5倍: 6.3^{トン})



- 香港への輸出実績が前年の2020年比で**5倍越えの6.3^{トン}を出荷**。
 - 「コロナ禍からの経済回復」と「**注文に柔軟に対応できる直販体制**」の2点によって注文が急増したと推測
 - **日本国内の需要期と重ならない**ため、安定した量を確保が可能
 - 現地の富裕層向けスーパーにて贈答品として販売を行い、**取引価格は国内の需要期と遜色ない**
- 更なる輸出拡大を目指し、県農協や生産者は**ニーズに即応できる出荷体制を整備**

マーケットイン発想による化粧箱作成



▼作成背景

- 昨年度、ぶどうの事業で活用した委託業者を通じた**市場調査にて、春節の売り場は赤と金色の化粧箱が多い**ことが、産地に伝わった
- 招へいたバイヤーより**温州ミカンの化粧箱がほかの産地にはない**との情報を共有頂いた



赤を基調とし文字を金色であしらったデザインの化粧箱を作成

- 春節向けの贈答需要期に253 k g を販売
通常DB出荷の**2.6倍の単価**で販売



シャインマスカットの輸出拡大に向け、鮮度維持に有効な包装資材を探るための輸送試験を実施



- 県農協では台湾の残留農薬基準に対応した防除暦（案）を作成し、生産者が栽培。試験的に30^{キロ}を昨年にテスト輸出を実施
- 輸送試験にて鮮度維持の包装資材検討のため段ボール箱の形・強度・緩衝材・包み方が異なるように30^{キロ}を6箱に分け台湾に向けて輸送
 - 輸送時の温湿度変化・物理的な衝撃のデータを取るために計測器も段ボール箱中に梱包
 - 到着後にカビ・へこみ・変色・傷がないか確認
(コロナ下で渡航が許されず、旅行会社と連携)

加工場の衛生面強化により、シャインマスカットの急速冷凍を実現・商品の付加価値を向上

- 加工場の改修工事を行い、輸出体制の強化
 - 急速冷凍機・乾燥機・真空包装機を備えた工場があったが、加工・荷受け・洗浄エリアが混合している等の衛生面に課題があった
 - 改修工事では3つのエリアを分離・排水溝からの害虫侵入遮断によって**食品衛生法に基づく冷凍食品製造の営業許可を取得**
 - 自社工場のため、相手国の衛生基準の規制が厳しくなっている今日に対応するだけでなく、先方要望にあわせラベルシール添付・パックサイズの調整が可能に
- シャインマスカットの冷凍商品開発に成功。今後はイチゴやサツマイモ等のブランド展開も目指し輸出拡大に繋げる



貯蔵技術力を向上させ需要期に合わせた出荷を目指す



- 昨年度、G F P 事業を活用し、4つの貯蔵庫、3つ資材、3つの貯蔵容器で検証
- 貯蔵先進地を貯蔵技術に詳しい研究員、産地に技術をどう落とし込めるか考える広域普及員、出荷体制、精算方法を検討する農協職員で視察
 - 傷み方は大きく2種類（灰色カビ病と軸枯れ）
 - 作業性や他産地のとりくみを検証



- 今年度、灰色カビ対策やかけ袋、農薬など園地にさかのぼり試験
- 軸枯れに有効で、作業性の良い資材に絞り込み
- 貯蔵容器に関して、通気性の良い他産地で利用されていたものを活用
- 収穫適期に収穫、貯蔵
- 貯蔵物を把握して商談

販売戦略から研修報告を含めた海外視察を実施



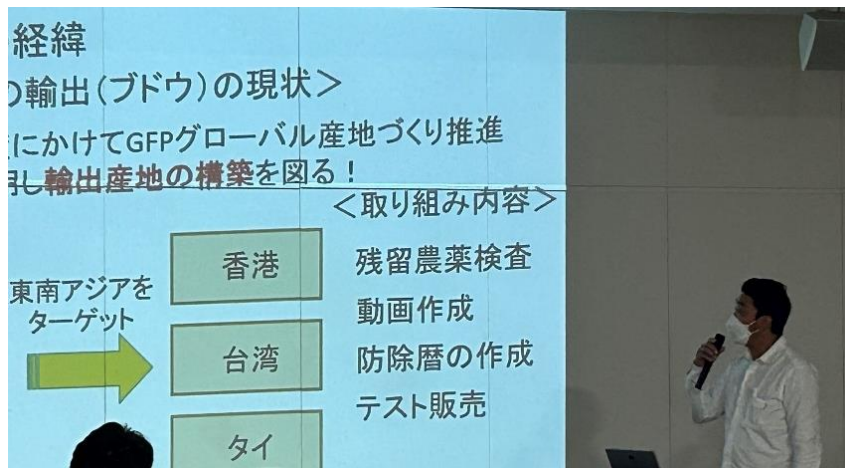
動画を活用した販売



バイヤーとの交流・販売状況の確認



研究員による調査



生産者・関係機関を含めた研修報告会

輸出産地づくりのポイント ～販売



動画配信用、QRコード
バイヤーの意見を取り入れたフレーズ



バイヤーからご提案いただいた
ネーミングと化粧箱デザイン

輸出産地づくりのポイント ～JAとしての役割

- **JAの強みは多様な品目・物量が集まりやすい点**であり、国内/海外での**需要期の“差”**を意識しながら商品提案することが輸出拡大のポイント

➤ **選果機能の引き受け**や、加工場整備等、荷が集まる“土台”の整備も重要

強みを活かすためには・・・

- **生産者が輸出に前向きになるための働きかけ**を根気強くすることも重要
 - 国内では求められない規格品でも海外ではニーズが高い場合もある(**大房シャインマスカット**等)、販路を多角化することは長期的に見て経営安定に繋がる等を説明
 - “お願い”して輸出向け対応をしてもらうのではなく、**成果が出るまで時間がかかる点や、輸出ならではのリスクがあることも説明**した上で理解者を増やしている
- 今後もJAが輸出取組を継続的に先導すべく、**JA内部の機運向上**も重要
 - 革新的な取組に前向きな・“長期目線”を持ちやすい**若手職員を輸出担当に置く**等

成熟市場と発展市場にそれぞれ戦略的にアプローチ

・成熟市場(香港・シンガポールなど)

- 一村一品の歴史がある大分県は少量多品目の産地で、品種リレーや作型の組み合わせ、貯蔵するなどして、周年出荷する基盤がある。また、その土地にしかないものなども多い。他産地にはない時期にある品目や小ロットだがストーリー性のあるものを提案していきたい。
- 相手国での販売のプロであるバイヤーの意見を最大限取り入れ、また、産地の状況も理解してもらいながら、商談を進めていきたい。

・人口ボーナスが見込める国、輸出規制が不透明なところ

- 商談会などに出展し、情報を集める
- 規制に対して迅速に対応できるように、JGAPのとりくみや産地の状況把握を行う

